

第31回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成29年5月30日（火） 14：30－16：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、上杉委員、中村委員、
松本委員、葉師寺委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、
佐藤参事官

(3) 関係省庁等

総務省情報通信国際戦略局宇宙通信政策課長
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官
外務省総合外交政策局宇宙室長

新田 隆夫
山之内 裕哉
齋藤 敦

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 技術試験衛星9号機について

資料1に基づき総務省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○この衛星で研究開発を行う主要な3つの技術については、諸外国も研究開発に取り組むのではないか。

●他国の通信衛星を凌駕して我が国が国際競争で優位に立てるよう、諸外国の動向をよく注視しつつ、着実に取り組んでいく。

○通信衛星の国際競争力強化の取組としても10年超以来であり、重要な技術試験衛星である。

(2) 宇宙システム海外展開タスクフォースの取組について

資料2に基づき事務局から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○よい取組であり、引き続き積極的に進めていただきたい。一方で、安全保障上の問題には配慮しているか。

●国内法及び国際的取り決めに則り、配慮している。

○今年度に注力する取組は何か。

●インドネシアとの協力関係が始まったばかりであり、同国からの要望も強いため、しっかりと取り組んでいく。また、タイでは電子基準点網の

整備や日本型の測位システムの導入等に取り組んでいく。

○準天頂衛星のサービスが開始されれば、オーストラリア等の国からの利用ニーズが増えることが予想される。外交的意義も含め、関係省庁がよく連携して協力を推進いただきたい。

(3) 宇宙基本計画工程表の中間取りまとめについて

事務局から、平成29年度の宇宙産業・科学技術基盤部会関連工程表の中間取りまとめの方向について説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○今年度に注力すべきと考える分野は何か。

●先日、「宇宙産業ビジョン2030」が取りまとめられたように、宇宙産業を発展させる取組が注力すべき重要な分野と考えている。

○スペースデブリ対策は難しいが重要であるため、諸外国の状況を踏まえつつ、取組を推進いただきたい。

○宇宙政策に関する我が国の取組姿勢を諸外国に示すためにも、発信力の充実に取り組んでいただきたい。

(4) 宇宙に関する包括的日米対話第4回会合について

資料3に基づき外務省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○OMDA（海洋状況把握）に関する日米の協力状況はどうか。

●自国における取組を相互に紹介し、意見交換している段階である。

以 上